



# 大学機関別認証評価 第1サイクルの検証

鈴木賢次郎

大学評価・学位授与機構

---

(『進化する大学機関別認証評価－第1サイクルの検証と第2  
サイクルにおける改善－』

[http://www.niad.ac.jp/n\\_hyouka/jouhou/1220651\\_989.html](http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/jouhou/1220651_989.html) )



## 大学評価・学位授与機構の実施する 大学機関別認証評価の目的

1. 認証評価機関が定める大学評価基準に基づいて、  
大学を定期的に評価することにより、教育研究活  
動等の**質を保証**する。
2. 評価結果を大学にフィードバックすることにより、  
教育研究活動等の**改善**に役立てる。
3. 大学の教育研究活動等の状況を第三者評価を通  
して**社会に分かりやすく示す**。

## 認証評価(第1サイクル)の実施実績

|     | 国立 | 公立 | 私立 | 計   |
|-----|----|----|----|-----|
| H17 | 2  | 2  | 0  | 4   |
| H18 | 7  | 3  | 0  | 10  |
| H19 | 37 | 0  | 1  | 38  |
| H20 | 4  | 5  | 2  | 11  |
| H21 | 27 | 10 | 0  | 37  |
| H22 | 7  | 15 | 3  | 25  |
| H23 | 1  | 5  | 1  | 7   |
| 計   | 85 | 40 | 7  | 132 |

・「基準を満たさない」との評価は平成23年度までに1校

3

## 認証評価(第1サイクル)の検証

### ●アンケート調査

- 対象校(9項目\*・79小項目)／評価担当者(6項目・43小項目)
- 選択式回答(5段階・2段階)
- 自由記述

\* 1. 評価基準及び観点、2. 評価の方法及び内容、3. 評価の作業量、スケジュール等、4. 説明会・研修会等、5. 評価結果(評価報告書)、6. 評価を受けたことによる効果・影響、7. 評価結果の活用、8. 評価の実施体制、9. その他

### ●評価結果(「優れた点」、「改善を要する点」等)の分析

※第1サイクル(平成17～23年度)における「優れた点」、「改善を要する点」等を基準ごとにまとめたものをホームページで公表

([http://www.niad.ac.jp/n\\_hyouka/jouhou/1222001\\_989.html](http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/jouhou/1222001_989.html))

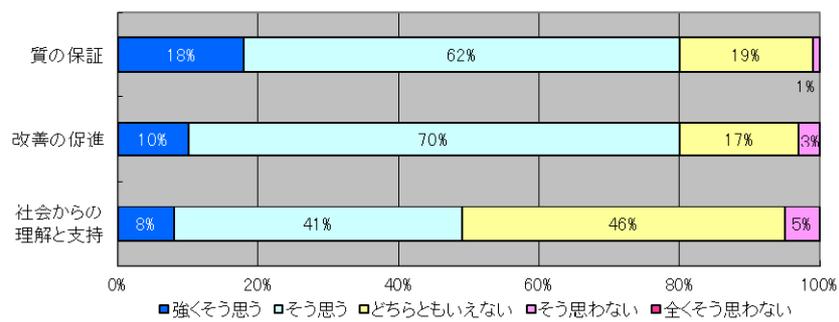
※「評価報告書」をキーワードで検索する検索エンジンをホームページで公開(<http://202.237.149.18/niad/evaluations/index>)

4

## アンケート調査結果の分析

5

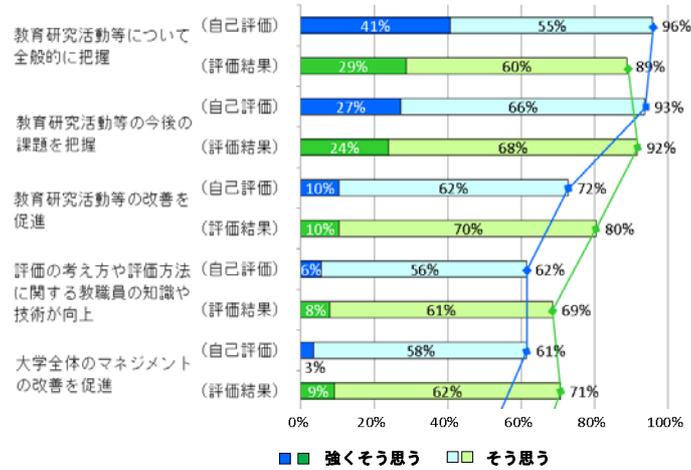
### ～ 認証評価の目的は達成されたか？ ～



- 「質の保証」「改善の促進」については概ね達成。ただし、「社会からの理解と支持」については、大学／機構共に更に努力が必要。

6

## ～ 評価を受けたことによる効果・影響 ～

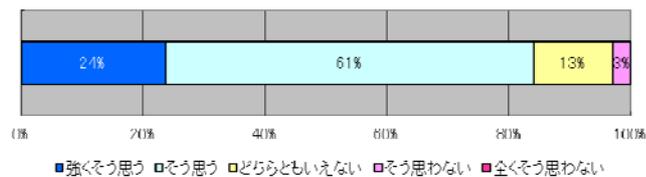


(平成17年度～平成23年度実施：【対象校】143校(短期大学含む))

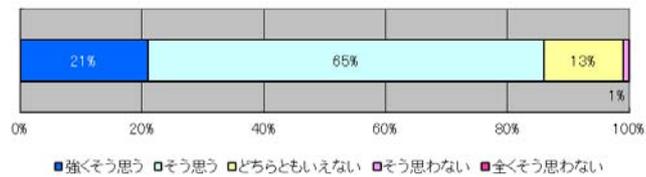
- 「全般的把握」、「課題の把握」には「自己評価」が重要！一方、「改善の促進」、「評価の考え方」、「マネジメントの改善」には、「評価結果—外部からの指摘—」が圧力やインセンティブとして機能。

7

## ～ 評価担当者と対象校の間の共通理解 ～



(a) 対象校



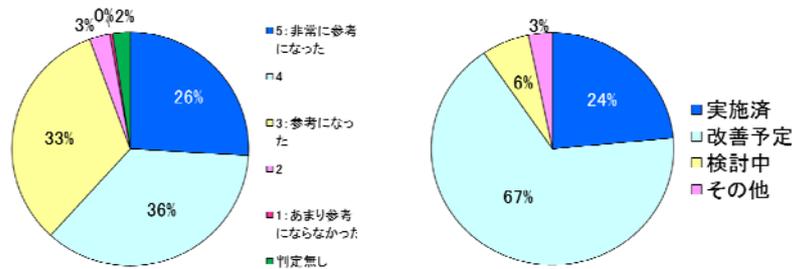
(b) 評価担当者

(平成17年度～平成23年度実施)

- 評価は、評価担当者と対象校の間の共通理解のもとで実施。

8

## ～ 評価結果の活用 ～

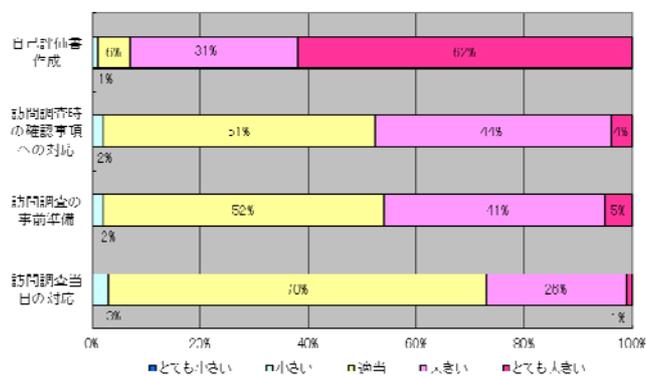


(a) 参考度

(b) 変更・改善の取組状況

(平成17年度～平成23年度実施：【対象校】 143校 (短期大学含む))

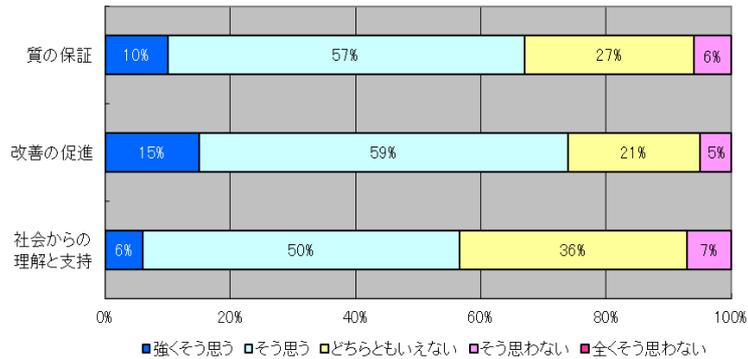
## ～ 評価に費やした作業量 ～



(平成17年度～平成23年度実施：【対象校】 143校 (短期大学含む))

- **自己評価書の作成**に係る作業量はとても大きい。

## ～コストパフォーマンス(作業量は見合うか?)～



(平成17年度～平成23年度実施:【対象校】143校(短期大学含む))

- 評価の目的に対して、評価作業に費やした労力が見合うかについて、どちらとも言えないという回答が一定数あることから、引き続き**コストパフォーマンスの向上に努める必要がある**。

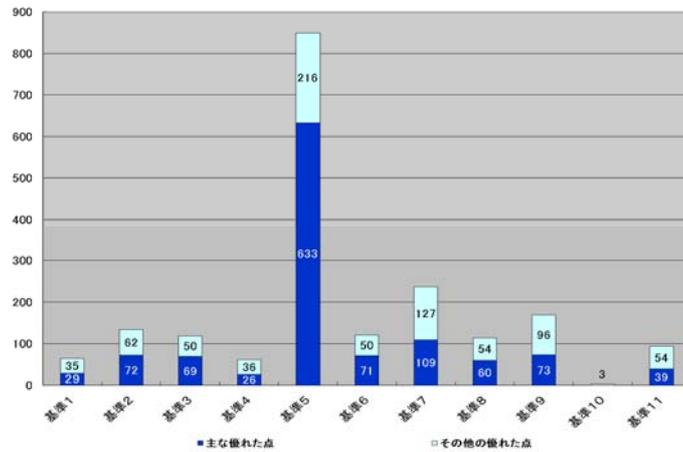
11

## 評価結果の分析 ～「優れた点」・「改善を要する点」 について～

(評価研究部)

12

## ○概要 ～「優れた点」～

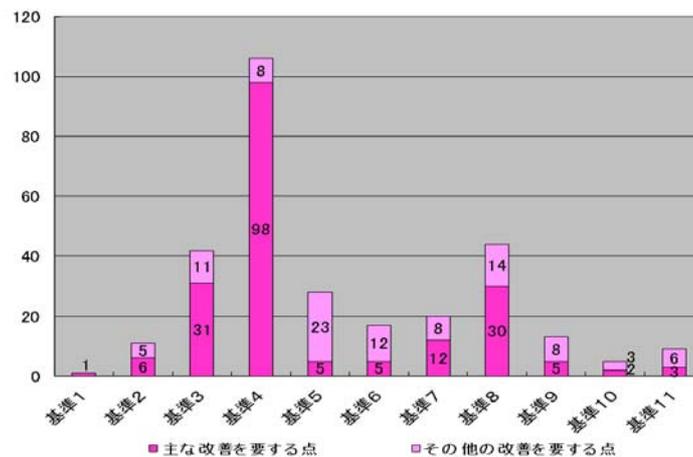


(基準1: 大学の目的、基準2: 教育研究組織、基準3: 教員・教育支援者、基準4: 学生の受入、**基準5: 教育内容・方法**、基準6: 教育の成果、**基準7: 学生支援等**、基準8: 施設・設備、**基準9: 教育の質の向上・改善システム**、基準10: 財務、基準11: 管理運営)

● 積極的に評価: 1,964件 (14.9件/校)

13

## ○概要 ～「改善を要する点」～



(基準1: 大学の目的、基準2: 教育研究組織、**基準3: 教員・教育支援者**、**基準4: 学生の受入**、基準5: 教育内容・方法、基準6: 教育の成果、基準7: 学生支援等、**基準8: 施設・設備**、**基準9: 教育の質の向上・改善システム**、基準10: 財務、基準11: 管理運営)

● 慎重に評価: 296件 (2.2件/校)

14

## ○ 課題－第2サイクルに向けて－

- ・ 教員の配置
  - － 設置基準の曖昧さ
- ・ 単位の実質化
  - － 学習時間の確保
- ・ 学習成果(教育の成果)の評価
- ・ 機関別認証評価の限界
  - － 教育の内部質保証システムの重要性
- ・ 評価結果を大学の更なる発展に役立てるために
  - － 「改善が“望まれる”点」の指摘
- ・ 「基準を満たしていない」と評価した大学へのフォローアップ(?)

15

## ・ 単位の実質化－ 学習時間の確保

○基準5(観点5-2-②)において、学生の主体的な学習を促し、必要な学習時間を確保する取組について分析。

○第2サイクルにおいては、同観点において、学生の**学習時間(授業＋自主学習)**についての分析を必須化。

← “**学習時間の実質的な増加・確保**”(『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～』中央教育審議会答申、平成24年8月)

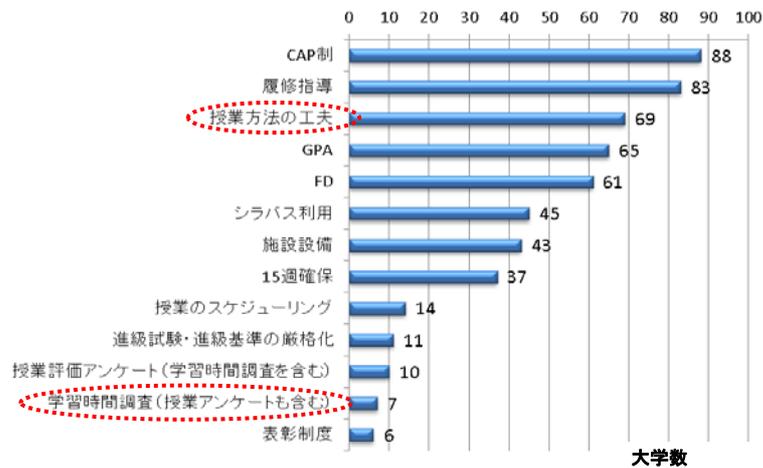
【関係法令等】

\*\*\* 大学設置基準第21条第2項(単位) \*\*\*

－ 「**1単位45時間**の学修を標準／**講義:15時間を1単位**」

16

## <参考：単位の実質化に向けての取組 (第1サイクル)>



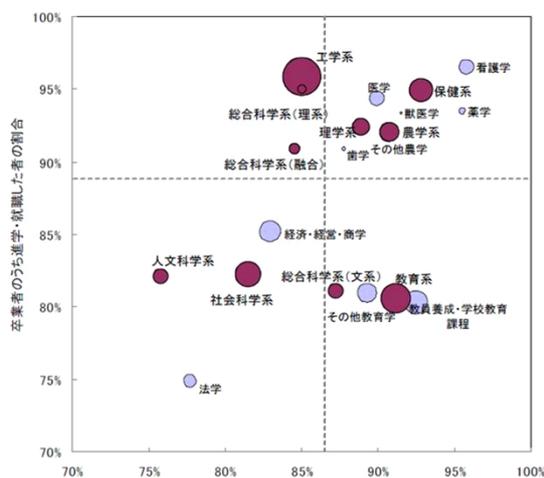
『進化する大学機関別認証評価－第1サイクルの検証と第2サイクルにおける改善－』（大学機関別認証評価第1サイクル総括報告書）より

## ・ 学習成果(教育の成果)の評価

- 「教員の視点にたった教育(教員が何を教えるか)」から「**学生の視点にたった教育(学生がどのような能力を身に付けるか(付けたか))**」への視点の転換から、基準6(の名称)を変更。
- 「基本的な観点」及び、分析に用いる「データ・資料」については、第1サイクルのそれらと基本的に同じ。
  - ・ 観点6-1-① 卒業(修了)状況等
  - ・ 観点6-1-② 学生の意見
  - ・ 基準6-2-① 就職・進学状況
  - ・ 観点6-2-② 卒業(修了)生、就職先の意見

○各観点において**データの羅列のみでなく“分析”を!**

## <参考:標準修了年限内卒業率>



標準修了年限内卒業率

(林隆之、"教育成果に関連するデータ・指標":大学評価・学位授与機構「国立大学の教育・研究活動に関する定量的データ・指標に関する基盤的調査」、2009  
<http://www.niad.ac.jp/ICSFiles/afiedfile/2009/06/15/shihyo2009.pdf>)

## 検証結果のまとめ

- アンケート調査結果: 第1サイクルに実施した認証評価は概ね有効、かつ、適切。  
作業量の大きさなど、多くの改善すべき点を抽出。
- 評価結果の分析: 当機構の認証評価における特徴を分析。「優れた点」を積極的に評価。  
多くの大学において共通して見られる課題(単位の  
実質化、内部質保証システムの構築など)について考察。
- 上記の結果を、(可能な限り)第2サイクルに反映。